



飯田市立病院ニュース

飯田市立病院・高松分院広報

災害救急医療訓練に 百七十人余の参加!

九月三日(日曜日)に災害救急医療訓練が行なわれ百七十人余の職員が参加しました。この規模の訓練としては三年目となり、救急医療体制の立ち上げから患者の受け入れ、移送などに関しては円滑に行なわれるようになってきたと思われるます。

今年、実際の災害により近づけるため、研修医を中心に患者役になってもら



い、シナリオに従い迫真の演技をしていただきました。また、地震により病院内専用携帯電話による連絡がでさなくなったとの想定で、情報を主に紙を使用して伝達することもしました。

さらに、病棟に被害がで

たことを想定した訓練も加えられました。これらにより実践感あふれる訓練となりました。



しかし、実際の地震ではもっともつと大変な事態が予想されます。複数の病棟に負傷者がでたり、酸素が止まりそれまでの治療を続けられない患者がでたり、

外からの負傷者も多数押し寄せるなど、病院の対応能力を超えた状況もあるかもしれません。

このような時に冷静さを失わず、やるべきことを整理し、臨機応変に対応していくため、基礎となる手順を決め、繰り返し訓練しておくことこそ大切であると考えます。

今から五年前の訓練では、患者受け入れの手順の確認がやつとで、それも思ったように進まない状況でした。それが三年前から、実

際に近い本格的訓練ができるようになり、さらに今年はその被害想定を大きくしても、何とか対応できるようになってきたと思われるます。飯田市立病院の災害対応能力は、確実に進化しています。

災害は何時襲ってくるかわかりません。「備えあれば憂いなし」です。訓練は継続しなければ価値が半減します。来年は、さらに災害の規模を大きくした訓練を計画していきたいと思えます。来年も、多くの方の参加をお願いします。

【救急医療委員会
長沼邦明】



火災発生時の

安全な搬送について学びました

九月上旬の三日間にわたり庶務課及び安全管理委員会主催で職員を対象に患者搬送訓練を行いました。参加者は事務職員、放射線技師、理学療法士、栄養士、新任者を中心とした看護師等で、多職種の皆さんが汗を拭きながらの熱の入った訓練でした。

レスキューエアストレッツチャーターを使用しての訓練は、患者さんをベッドからマットに移し、非常口方向への廊下移動の後、階段を降りる移動をおこないました。

参加者の感想は、患者さんの立場を体験して「不安な感じはなかった」「階段はお尻が痛いかなと思ったが、ほとんど何ともない」、搬送する立場では「ストレッツ



チャーターが滑るので、スムーズに搬送できた」等でした。

このレスキューエアストレッツチャーターなら患者さんを

一人で搬送できます。また、コンクリートの上でも引きずることが可能と言われています。

搬送のポイント①患者さんの上半身をしっかりと起こし、床面との摩擦を少なくする。②自分の身体を進行方向にしっかりと傾け重心を下げ、身体全体で引きずることです。これらのポイントをしっかりおさえて患者さんも職員も安全かつ体に負担のかからない搬送が出来るよう、次回の訓練にも大勢の参加をお願いします。

【安全管理委員会】

ゆうゆう通所リハビリ半日コースが始まりました 送迎にもお応えします

九月より、現在の「ゆうゆう通所リハビリ事業」に、新たにリハビリを主体とした半日コースがスタートしました。定員は十五名で、ご利用時間は、朝八時三十分から十二時三十分までの四時間となっております。

コースの内容は、個別リハビリ、集団レクリエーションおよび自主トレーニングなど、日常生活が安全で快適に暮らせることを目的に、お一人おひとりにあった内容を組み合わせながら、充実した時間を過ごしていただ



くよう工夫しています。

四月の医療保険制度の改正によりリハビリが一部受けられなくなった方がいます。この方々の中に九月より介護保険を適用して通所リハビリを利用されている方がおり、大変好評をいただいています。

送迎ができる範囲も限られてはいますが、職員体制を充実させ、在宅支援のニーズに応えられるよう頑張つて参ります。ご希望の方はゆうゆう窓口へお気軽にご相談ください。

生きること

平成十四年二月、筋萎縮性側索硬化症(ALS)と認定され、そのときの驚きとショックは言葉では言い表せなかった。今まで病氣知らずで、健康だけが自慢の私に「まさか」が起きたのだった。

「恐ろしい、先のことは考えたくない」一日一日を大切に悔いの無い人生を送らなくてはと思うと同時に、十万人に二、三人と言われる(ALS)に選ばれてしまったからには病氣の記録も残したいと思った。

この体、この歳で自信が無かったが、パソコン教室へ通うことにし三十二回杖をつけて休まず通った。二時間の授業はとても疲れたが自分でも良く通ったと思う。

パソコンが打てるようになって子供、友人、姉

妹などメール交換やインターネットで情報やショッピングも出来るようになった。発病から今日までの記録、また、自分史五十年前、六十年前の話、楽しい思い出をたくさん綴っている。

昨年十月、同級会に参加することが出来た。「皆に会いたい、でもこの体では」と迷ったが、幹事さんが「心配しなくても全部手配してあるで」と言ってくれ、ホテル側の配慮と、同級生の親切で何不自由なく出席でき、嬉しくて涙がこぼれ、人生最高の喜びを感じた。

今年の七月、左足に激痛が走りビリビリ、ズキズキ痛くて眠れなくなり続いて膝がぐくとぬけてしまった。立ち上がる、座るも困難、両腕も力が入らない為、物を落としたり、着物の脱ぎ着も大変。また、尿もれや「言語障害で何を言っ

ているのか分らない」と言われたり、全身がだるくて今は、悲しく苦しい生活を送っている。

今後病氣がどのように進行していくのか心配な毎日だ。寝たきりになり、食事・入浴・排尿の心配。機器を使つての延命になったら一番苦しいのは自分ではないかと思う。子供には子供の生活があるから迷惑をかけたくないし、「自分らしく最後まで生きる」を折々に考えているが結論はまだ出ない。

皆さん命のある限り、元気で頑張りましょう。

【飯田市松尾

多賀幾子 七十一歳】



かかりつけ医を持ちましょう

飯田市立病院では「かかりつけ医」の先生方と医療連携を積極的に

行なっています。当院での治療が完了したときや、病状が安定したときは「かかりつけ医」の先生に診ていただくことをおすすめしています。(当院より紹介等をいたします)

どのような医師が「かかりつけ医」に適しているか選ぶときの参考としていくつかポイントを上げておきます。

- ① 近隣の医師が理想的です。特に子供さんやお年寄りの方がいる場合には通院しやすい事が重要なポイントとなります。
- ② 相性のいい医師を見つけることが大切です。お互い人間同士、家族全員の健康を診てもら

うので、信頼できる関係が大切です。

- ③ かかりつけ医を一度決めたなら全幅の信頼を寄せましょう。この相互の信頼が病気を治す力を生むことも多くあります。
- ④ 健康診断の結果、あるいは、かかりつけ医に紹介してもらった病院での検査結果や薬などは報告しておきましょう。

【地域医療部】



手をたたき、足を踏み鳴らしながら踊る姿に心が癒されました

入院中の患者さんに夕食後のひとときを楽しく過ごしていただくことを目的に、平成8年よりボランティアの会を立上げ、各種コンサートを月1回開催する事を目標に活動しています。今回は、合唱や楽器等による演奏会ではなく、南スペインのジプシー民族舞踊を趣味とされている「ハレオフラメンコ」の皆さん(伊那市を拠点に活動している)による踊りを楽しみました。ギター伴奏にあわせて「楽しく華やかに」、「ゆっくりだが激しく」踊る姿に真剣に見入る患者さんのお顔を拝見し、十分満足いただけましたと感じました。ボランティアの会は、本年10周年を迎えました。これからもボランティアとして出演いただける方々と一緒に、患者さんに感動を与えるイベントを計画していきたいと考えています。おたのしみにも。



【ボランティアの会】

検査の窓 血糖値について

食物の中に含まれている糖質は体内で消化されブドウ糖となり、吸収されて血液中に入ります。この血液中のブドウ糖の濃度を数値で表したものを『血糖値』といいます。基準値は空腹時で70~109mg/dlとされています。

血糖値は食事や運動などで変動しますが、膵臓から分泌される“インスリン”という唯一血糖を下げるホルモンの働きにより、食後でも140mg/dlを超えないように調節されています。ところが、食事の量が多すぎたり、インスリンが十分な働きができない時などに、血液中のブドウ糖濃度があがってしまいます。これが高血糖の状態です。高血糖状態が長く続くと**糖尿病**となるのです。

高血糖状態のときの自覚症状として、

・疲れやすい、だるい ・空腹感、のどの渇き ・頻尿 ・体重減少
などがあります。

しかし、気づきづらいこともあり、たまたま受けた検診などで初めて発見される事が多いのが現状です。ですから、これらの症状は身近なものとして捉えておく必要があります。定期検診を受けていただくのはもちろんですが、少しでもこれらの症状を自覚された場合には、早めに医療機関を受診されることをおすすめします。 **次回は輸血について記載します。**



【臨床検査科】

皆様の声にお答えします

市立病院では、外来・入院患者さん、お見舞い等の皆様から様々なご意見ご要望をいただいております。貴重なご意見につきましては、集約して関係職員への回覧の後、できることから改善を行っています。

50番の放射線部の職員の態度には腹が立ちました。

患者さんのレントゲン写真を見ながら笑っているのです。事務の人もレントゲン写真を見ているのですが、なぜ見ているのかわかりません。見てわかるのでしょうか。

待合のベンチからよく見えておりますが患者側としては、具合が悪く不安で検査に来ているのにあのような態度をとられると、非常に不愉快になります。

不愉快な思いをさせたことにつきましてはお詫びいたします。

ご注意のありました職員の態度につきまして、放射線部の会議の中で上記の内容を伝え、患者さんから見られているという意識を常に持ち、誤解を受ける事が無いよう徹底をいたしました。

なお、事務職員がフィルムを見ていることにつきましては、患者さんのお名前の確認と撮影部位の最終チェックなど、必要な業務として行っています。

皆様からいただきました貴重なご意見はよりよい医療を行うために反映させ、期待にこたえられる病院にして参りたいと思います。

話題の広場



職場紹介

【4 東病棟の紹介】

4 東病棟は産科病棟です。平成18年3月末までに、飯田・下伊那地域で分娩取り扱いを3施設が止め、当院分娩件数は、昨年まで月平均40件でしたが、月80件前後に増えています。

今年1月に病棟の改修工事をし、分娩室を1室増室しました。助産師外来で、「どんなお産をしたいか」など希望を伺い、分娩時には出来るだけ希望がかなえられるよう援助しています。

最近では、「横を向いたまま」や「四つんばい」でのお産や、へその緒がついたままで赤ちゃんを抱っこする「カンガルーケア」も行っています。完全母子同室・部屋での授乳も始め、赤ちゃんは生まれてからずっとお母さんと一緒にいられるようになりました。また、授乳室には家庭での授乳を想定し「畳コーナー」を設置しました。

私達は、こうした取り組みを続けながら、皆さんが望む「よいお産」を一緒に考え、支援していきます。どうぞ、ご意見をいろいろとお聞かせください。



- 項目です。
- ▼七十歳未満の方
- 高額療養費の自己負担限度額
- 人工透析を要する上位所得者の自己負担限度額
- ▼七十歳以上の方（六十五

保険証が変わります

平成十八年十月から保険制度が変わりました。変更になったのは次の

歳以上老人保健該当者を含む)

○一定以上の所得がある方の自己負担割合

○高額療養費(高額医療費)の自己負担限度額

(詳細は加入保険先へ老人保健に該当される方はお住まいの市町村役場へお問い合わせください。)



保険制度の変更に伴い、

高齢者受給者証(緑色)、老人医療受給者証(白色)の負担割合が変更になる場合があります。新しい受給者証が届いた方は、当院へお越しの際は、必ず新しい受給者証と保険証を併せて窓口へご提示ください。受給者証に変更のない方は、今までの保険証と受給者証を、毎月窓口へご提示いただくようお願いいたします。

【医事課】

新任医師の紹介

平成18年7月～9月



外科 村山 幸一
むらやま こういち
平成15年卒業
平成18年7月16日着任
前勤務病院：
松波総合病院



編集後記

今年は七月の集中豪雨により、県内でも甚大な被害がありました。九月三日に被災者の皆さんの治療にあたる、災害救急医療訓練が当院でも行われ、多くの職員が出席しました。

また、がんの早期発見につながる期待されるPET-CTが七月から導入され、順調に稼動しています。

当院では救命救急センターとがん診療連携拠点病院の取得を目指しています。先日、職員対象の研修会が開催され、これらの取得について院長から説明を受けました。早期取得の実現にむけて、一丸となって頑張っていきたいと思えます。

【編集委員 森下美紀】

